

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ, Ⅳ 】
2 実施対象者	下妻第二高等学校 第1学年
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (総合的な学習の時間)</p> <p>2 行事名 ()</p> <p>3 その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>1 イベント名 ()</p> <p>2 その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・下妻特別支援学校の講師より、障害者スポーツの概要について聞き、その理解を深める。 ・障害者スポーツを体験することにより、障害の有無に関わらず、ルールなどの工夫次第で、誰でもスポーツの素晴らしさを共有できることを知り、共生社会のヒントを得る。 ・「ボッチャ」を体験し、パラリンピック競技に対する興味・関心を高める。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1 学年全体の活動として、下妻特別支援学校から講師を招聘し、障害者スポーツの概要の講演と、ブラインドサッカー等のデモンストレーションをお願いした。下妻特別支援学校は、快く講師を引き受けてくださり、実施日には下妻特別支援学校の校長が参加し、講評をいただいた。 ・ボッチャについては後日、1クラス(40名)のみ「ボッチャ大会」を開催した。その際も、下妻特別支援学校より、3名の先生に来ていただき、ルール説明や審判、ゲームの指導をお願いした。 ・12/4の講演会には、車いすやブラインドサッカー用目隠し等準備していただき、本校生徒(事前に体験する生徒は選出済)に体験させるデモンストレーションを行った。また、パラリンピックの競技種目や、障害者スポーツのルール、アスリート達の姿などを紹介していただき、生徒たちは感銘を受けたようだった。 ・12/8のボッチャ大会は、クラスの生徒を事前にチーム分けしておき、3名の講師の指導を受けながら練習からトーナメントの試合まで、大いに盛り上がった。



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に行ったアンケートについての結果は以下の通りである。(267名中) <ol style="list-style-type: none"> 1 あなたは障害者スポーツを知っていましたか？ 知っていた…65%、知らなかった…35% 2 あなたはパラリンピックの競技種目を知っていましたか？ 知っていた…47%、知らなかった…53% 3 あなたは「ボッチャ」という競技を知っていましたか？ 知っていた…24%、知らなかった…76% <p>知っている競技種目を尋ねると、テニス・バスケット・ラグビー・陸上・サッカー・水泳・バレー・アーチェリー・卓球・ゴールボールがあがった。パラリンピックについてはテレビ等でも宣伝が始まっているので、ある程度の競技は知っているようだったが、ボッチャについては知名度が低く、また、障害の程度による競技の階級などについては知らない生徒が多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学年全員には講演会后に、ボッチャ体験クラスはボッチャ大会についても感想を書かせた。どの生徒も、障害者スポーツの種類の高さ、障害をサポートする道具や工夫されたルールなどを知り、驚いていた。講演の中で紹介された、パラリンピック出場を目指すアスリートの前向きな姿には感動を覚え、自分自身の学習や部活動に対する取り組みを反省する者も多かった。「失ったものを数えるな。残されたものを最大限生かせ。」という言葉に感銘を受けた生徒も多く、初めから無理だとあきらめず、状況を改善する努力や工夫の大切さをかみしめていた。障害者スポーツを支えるサポーターに着目した生徒もあり、自分のできることを模索したいという意見も多数あった。 ・実際にアイマスクを体験した生徒は、視覚を失うことで体のバランスを保つのも難しく、この状態でスポーツをすることに本当に驚いていた。 ・ボッチャ大会を経験した生徒の感想は、ボッチャの話を聞いた時はとても簡単で楽しくできるか疑問を持っていたが、実際にプレイしてみると、ボールコントロールが難しかったり、駆け引きがあったり、チームで協力したりと、とても楽しかったというものが多かった。手でボールを投げられなくても、補助具等があれば障害の有無に関係なく全力でプレイできるスポーツだという意見を書いている生徒も数多くいた。 ・今まではあまり興味を持っていなかったパラリンピックだが、東京パラリンピックはぜひ観たいという生徒も多かった。 <p>以上のように、生徒たちの感想から分析すると、設定した目標は、概ね達成できたと考える。 また、茨城新聞(12月25日)にも記事が掲載され、この取り組みを地域にも発信することができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>本校は10年近く下妻特別支援学校高等部と赤十字部が交流している。ここ2年はボッチャを中心にスポーツ交流を行っていた。その関係もあり、下妻特別支援学校の先生に講師を依頼した。1学年生徒が280名と多いので、全員がボッチャを行うのは不可能なので、講演の中にデモンストレーションを入れてできるだけぎりの体験型の講演をお願いした。</p>



8 主な課題等	今回の実践では、実際にボッチャ大会は1クラスでしか実施していない。次年度は、十分に計画の上、全クラスが体験できるようにしたい。 今回の予算で、ボッチャの道具を購入したが、項目間の流用の制限があったため、必要数は購入できなかった。 (足りない分は下妻特別支援学校から借用した)
9 来年度以降の実施予定	障害者スポーツ理解のための講演会、ワークショップ、校内競技大会等の実施。 スポーツを通じた特別支援学校との交流や競技会など。